

【経営ニュース】

完全失業者 13ヶ月連続減少 総務省が労働力年報公表

総務省統計局はこのほど「平成18年度労働力調査年報(基本集計)」を公表した。その中で、平成18年度の就業の動向を見ると、9月を除く各月で前年同月に比べ増加している。男性は1月、9月及び10月を除く各月で増加、女性は5月を除く各月で増加した。就業者のうち自営業主・家族従業者は、すべての月で前年同月に比べ減少。一方、雇用者はすべての月で増加しており、特に5月の雇用者は5525万人と、過去最多となった。主な産業別にみると、サービス業はすべての月で前年同月に比べ増加し、20か月連続で増加、製造業もほぼ各月で増加した。「医療、福祉」も18年6月を除きほぼ4年間増加を続けている。建設業は4月を除く各月で減少した。失業の動向をみると、完全失業者は13ヶ月連続で前年同月に比べ減少した。男性は18年2月以降11ヶ月連続で減少しており、女性は6月を除く各月で減少した。完全失業率は、1月4.4%の後、2月以降は4.0～4.2%で推移した。

就業者と完全失業者を合わせた労働力人口は、平成18年平均で6657万人(男性3898万人、女性2759万人)となり、前年に比べ7万人増加し、2年連続の増加となった。このうち、就業者は26万人の増加、完全失業者は19万人の減少となっている。